



パチンコ・パチスロ産業のあり方について熱く語る深谷会長

遊技機の改革に いまこそ着手すべきです

日本遊技関連事業協会
会長 深谷友尋

リーマン・ショックによる世界同時不況以後、各国に比べ立ち直りの遅れている日本は政治の停滞も加わって、デフレ状況を抜け出せないまま、厳しい経済環境に置かれています。その中でパチンコ・パチスロ産業の経営も下降線をたどっており、憂慮すべき事態を迎えています。この状況下、産業界で先頭に立って活動している日本遊技関連事業協会の深谷友尋会長にインタビューし、現在の姿をどう分析し、明日の姿をどうとらえたらいいかをお聞きました。

聞き手・「日遊協」編集部

——年が明けて1か月が過ぎましたが、パチンコ・パチスロ産業界に明るい兆しが見えませんか。本日は、日遊協活動もさることながら現在の産業界の状況をどうとらえるか、どう対策を講じていくべきかを中心にお話を伺いたいと思います。お客様のホール離れが大きな課題になっていますが、深谷会長はこの状況をどう見ていますか。

深谷 全国のホール数は平成22年の警察庁の統計によりますと1万2652店となり14年連続減少しています。30兆円産業と言われていた市場規模も「レジヤード白書」によれば、21兆円をわずかに超えるところまで落ちてきています。そんな状況の中で、さらにお客様離れが起きていると言えます。そのひとつの原因は、ある調査会社によると、1か月の小遣いが4万8000円と言われていたのが、ここに来て4万円を切っていると報告されています。すでに2割減という実態です。

多額な投資額が
お客様離れに

——この状況を招いている原因は

いろいろあると思うのですが。

深谷 遊技産業では、お客様へのサービスに務め、経営を工夫して努力を続けています。しかしながら、この産業の基本は「装置産業」であるということをお忘れはけません。その成り立ちは、遊技機のあり方につきるとも言えます。

この厳しい時期に、お客様が多額な投資をしなければ結果が出てこない遊技機が多すぎます。お客様離れの一番大きな原因は多額な遊技料金を使わなければならないという現状です。ポケットマネーで遊べる産業にしていかなければならない。昔言われていたように、100円のお金をどのくらい集めるかというのが経営の原点であり、真骨頂と言えるのです。

大衆娯楽としても一度構築するには、日経新聞にも掲載されていたのですが「ボトム・オブ・ピラミッド経営」、つまり底辺のお客様にどう取り組むかが大事なのです。インドなどでは成功を収めている企業がたくさんあります。10個入り石鹸のセットを1個で売る。1個を半分にして売る。いわゆるポケットのお金で購買ができる経営が展望を切り開くのです。

1円など低貸玉営業が普及した理由もここにありますが。このようにヒントは十分に得ているのに、まだ4円パチンコに射幸性を追求するような機械が市場の多くを占めている。このこと自体が、お客様を自ら減らしている大きな要因だと思います。

これだけデフレ社会になって、年金問題も不透明という世の中の背景もありますし、要請されている事柄をもう一度しっかり踏まえる必要があります。いつでも遊技がやめられる時間型の遊技機で遊べず、やめるにやめられない状態になっているのは、お客様無視が続いていると言ってもいいのではないのでしょうか。

——遊技機をもっと手軽に遊べ、バラエティーに富んだものにしな
いと危機が迫るといことですが、
その対策はどのようなように。

深谷 これを打開するには全日遊連をはじめ全団体が早急に会議を開いて意見交換をすべきです。これは真摯に明日の産業をどうするのか、機械メーカーさんも交えて話し合う、そういう時が来ています。しかし、拙速であってはなりません。10年先を見通した議論が

必要です。高射幸性の時代ではないことを認識して、大衆娯楽という原点に帰る道をもう一度、緊急に選択しなおさないと明日はないと思います。

ゲーム性強化へ 不正対策を徹底

——原点の大衆娯楽をめざす場合
でも射幸性の問題が出てきますが。

深谷 大人ですから当然、勝ち負けは必然的なものとして関与します。ほどよい勝負の感覚、射幸性というものはどんな場合でもしっかり担保されているので、逸脱した領域に入らない限り問題はないと思います。むしろ、ひとつ言えるのはゲーム性についての課題です。いままでの機種を踏襲した、単一のもの検査で合格しますが、ちよつとバリエーションのある機種は現在の基準にはまらず却下されます。このことについて業界はきちんとした道筋を自ら作っていかなければならぬと思います。その大前提として肝心なのは、徹底した不正対策です。「承認によって不正が起これるのでは」と外部に心配されるような業態ではその

改善は難しい。信頼関係を作るにはコストもかけて徹底的に不正対策に邁進していく必要があります。——その道筋をつけるためにも、行政との関係が重要だと思われませんが。

深谷 行政への情報の提供。これは正確に、円滑に推進されています。その関係にギクシャクしたところはなく、私関わったこの10年を見てもお互いに理解を共有しています。ただ悲しいことは、99%以上の人が正しく仕事をしても、0・0何%の悪い者がいることによって、業界の全体を誤解される恐れがあるということです。我々は行政当局に日頃の努力を十分に提示させていただいて、活動の内容を理解していただかなければなりません。さらに新しい時代に即応した遊技産業の立ち位置を示して理解を求めていく必要があります。日遊協はこれまででもそうであったように、これからも主導的な役割を果たしていきます。

試打会の中で 相互発信して

——射幸性、ゲーム性でも、気楽

1月13日、臨時総会で年頭のあいさつ



に楽しめる機械を作るために日遊協は独自の取り組みをしています。

深谷 2月26日に東京で開かれる「もつと楽しく!!もつと遊べる!!」ばちんこ&パチスロフェスタ」の試打会には大きな意義があります。これはメーカー、ホールそれぞれが発信するといった一方通行のものではなく、両者が合体して新しい遊技機を目指すものです。同じ土俵の仲間として、観客席の

お客様も土俵にあげて、それぞれにとって有意義なことは何かを模索するものです。少数参加でも多くの場所で開催する方向に発展させたいですね。北海道から九州まで、参加したお客様も携わった若い人たちも意識が変わると思います。

空疎な遊技業法 風営法の改善へ

——いったん、具体的価値の問題に移りたいと思いますが、民主党の娯楽研から出された遊技業法に対する日遊協の見解が出て、それと並行して風営法の改善に各団体と連係して取りかかるといふところに来ていますが。

深谷 遊技業法自体については、実は20年前から語られてきています。ただその中味は空疎なものばかりで、いまだに根幹にふれている法律案は出てきておりません。遊技業法を作るとすれば、民主主義社会として民意に

反映されたものでなければなりません。今回のケースは、業界のすべてのみなさんの意見をまとめたものかと言え、全く逆です。ある日突然提出されて、「どうだ」と示されても、私たちは「望んでいない水をいきなり飲む」ということは断じてありません。

それより、風営法の中で考えていけばまだまだ改善へ研究すべきことはいろいろあります。風営法も時代の流れによって変化していくものであり、行政側の意見をお聞きしながら取り組むべきです。「新法だ。新しいものだ」というとかつこよく聞こえるかもしれませんが、我々は60有余年、風営法の中でどのくらい恩恵を受けてきたかわかりません。風営法は俗悪なもので、私たちを締め付けてきたかと言え、そんなことは全くありません。繁栄の一助である、共に歩んで来たものであることをよく理解すべきです。

カジノとは 本質的に違う

——国会への提出が取り沙汰されているカジノ法案に対し、いくつ

かの府県が名乗りをあげたりしていますが、私たちにどう関わるのでしょうか。

深谷 カジノに対しては拒むことも賛成することもあります。平常心で対処するということです。もしそれが「黒船」であれば、その動きを読んで対応していくだけのこと、真つ向から大砲を用意して闘うということではありません。国民が楽しみひとつだと認めれば、それでいいわけです。私たちは大衆娯楽として1万2000軒を超える仲間と娯楽を楽しめる社会を作りあげること、専念すべきでしょう。カジノ法案があたかも私たちの業と関わりがあるように言う人がいるとすれば、それは全く筋違いです。カジノのように国が認めるギャンブルと違って、私たちは風営法の中で営む許可業者であって、これからも大衆娯楽として守ってほしいのです。

諸施策で成果 さらに広がり

——日遊協活動は多岐にわたって展開されていますが、ポイントに

なる点を簡単にふれていただけま
すか。

深谷 まず、産業界にとって根幹
となる不正対策についてですが、
これは遊技機健全化委員会をはじめ
め、横断的なセキユリティー対策
委員会、ゴト対策会議など、确实
に対応していただき攻略法詐欺対
策ほか社会的にも大きな成果をあ
げていると思います。今後自信
を持って活動していきます。また、
遊技産業健全化推進機構もさらに
充実した活動を推進して、社会的
評価を高めています。

一方、社会貢献の中では環境対
策が重要です。共生の森をはじめ、
多くの会員が汗をかいています。
お金を出せばいいというバラマキ
貢献ではなく、共に生きることを
学ぶことが大切です。また、見返
りを求めるのもよくありません。
ニュースになるから、社会に認め
られるから貢献するのではなく、
それが社会にとって必要だから勇
気を持つて行うことが重要です。
のめり込み対策も、業界全体で
取り組むことになって大きな進歩
を示しています。リカバリーサポ
ート・ネットワークは沖縄を基地
にしていますが、もっと地域を広

げるべきでしょう。

大衆娯楽だとは 言いにくい状況

——さまざまな分野で日遊協は日々
活動を続けていますが、それでも
産業界は難しい局面にあります。
これからの将来へどんなことを考
え、取り組んでいくべきでしょ
うか。

深谷 いまゲームセンターにお年
寄りが集まっていると聞かれてい
ます。年金生活をする人にとって、
パチンコは「恐い、お金が続かな
いし、ヒマつぶしもできない」と
思われ、その欠けた部分を埋めて
いるのがゲームセンターと言いま
す。パチンコのCR機が出た当時
は千円単位の世界でした。今はま
さしく1万円札が単位になってし
まっています。大衆娯楽とは言い
にくいのです。今こそ構造改革が
必要です。機械の構造、ホールの
構造など全体的に変えていく必要
がある。これらに時間をかけてト
ライすればかならず結果が出てき
ます。一気に解決しようとしても
無理です。CR機でも10年かかっ
て浸透してきたのです。今の小学

生が大人になって、さあパチンコ・
パチスロをやってみようという時
にどう対応できているかです。

負担なく遊べて 楽しめる遊技を

——構造改革には、いろいろな側
面があります。

深谷 私が大学を出たのが昭和42
年、会社経営に参加して一兵卒か
ら初めました。その当時は玉積み
時代で台の後ろで玉を補給してい
ました。それが昭和44、45年に自
動補給システムになる変革が起き
ました。台裏とのやりとりもなく
なり、自動化でお客様もスマート
に遊技して頂けるようになりまし
た。同時に立ったまま遊技する
ことから座り島になった。これも
大きな変革で、高齢者に人気を博
し、お客様が増えました。次はフ
イーバー機の登場、とてつもない
出玉感があった。そして、CRが
登場してカード式へ、業界の発展
に大きく貢献しました。まさに業
態を変えました。
こうして発展してきた業界がい
ま、停滞している感があります。
うるさい、入りづらい、やり方が

わからない、お金がかかり過ぎる、
遊べないなど否定的な側面がクロ
ーズアップされる事態となってい
ました。このうっ積している
問題をどう解決するか。楽しめる
ゲーム性をそなえ、金銭的に負担
にならない遊技機で、そして居心
地のいい設備を提供する遊技への
変革が必要だということです。こ
れを達成しなければ、シャッター
通りといわれる商店街のようにな
ってしまいます。お互いが恩恵を
シェアできる産業にしていかなけ
ればならない。またホール、機械、
サービスなどに常に留意した「環
境にやさしい産業」に発展させる
のも、ひとつの構造改革です。

機械代ではなく 機械のあり方に

——構造改革という意味では、今
お客様に一番フィットしていると
思われる低貸玉営業は、高い機械
代などの問題もあり経営的にはど
うなのかという声もあるかと。

深谷 低貸玉営業が経営的に成り
立つのはすでに実証済みです。「低
貸玉料金中心の営業」など、この
3年間で経営のノウハウは確立さ

れ、「低貸玉料金」オンリーでも成り立つのです。また、機械の高い安いが本質的な問題ではありません。そこから出てくるパワーをどう生かせるかがカギです。1台が高価格でも1年間のサイクルで使えれば問題はない。今は短命な機械ばかり多いから問題がある訳ですから遊技機の開発力、持続できるゲーム性がポイントになってくるのです。

メーカーとしても機械の開発費がかかり過ぎる課題を抱えています。原点に帰り、遊技機自体もバランスのよい価格の調整を心がけるべきです。もう一度すべての団体に議論し、それを構造改革に結びつけていき、閉塞感から抜け出したいものです。

小規模経営でも 生きられる産業

――変革の試みの中で、企業の規模による格差は問題にならないでしょうか。

深谷 企業規模が大きいから生き残れて、小規模は難しいというのは当たりません。この業界のいいところは地域密着経営が出来、売

ときにはユーモアも交えて



掛のない商売だということです。

一所懸命合理化をはかり、シンブルな経営を志向すれば小規模でも生き残れる産業です。その過程の中で、今後はさらに大小に関わらず、地産地消の「福祉経営」を成就しなければなりません。地域情報発信場所であり、本当の地場経営をしている函館の「パチンコ富士」に学ぶことが出来ます。地域に密着した、年配の方々、若い人も取り込んで「福祉経営」を目指すのです。昔の経営はそのことを大事にしていました。近所の冠婚葬祭など、情報源はパチンコ店

ていけます。

だった、その原点を見直せばいいのです。体力にあった経営形態が求められています。大企業は新しい戦略とノウハウで経営していただければ、業界のイメージを上げる事に役立ちます。小規模店が大きな規模の店を見ていてはダメ。農業と同じで、小規模でも少量で高品質の産物を生産する、地産地

地を固めて 栄養を貯えて

――いま産業界が原点をもう一度見つめ直す必要に迫られていることがよく把握できましたが、ひるがえって私達の組織の原点はなにかも考えるべきですね。

深谷 私は総会のたびに思うのですが、我々日遊協に参加する企業は、ホール・メーカー・販社などは、素晴らしい人材が参加しています。

入らなければならぬ義務があるわけではないのに、自ら志してこの業界を憂い、業界の将来に期待し、努力を惜しまない集団と言えます。こういう団体は、我々の産業には他にありません。このことは誇っていいと思います。エキスパートな経営者でまじめな人たちが集まっており、お互いのかげ引きをしたりする団体ではありません。フォア・ザ・チームの集まりで、こういう人たちがみんな山に登ろうとしているということです。

――ありがとうございます。会員のみなさまもよく理解してくださると思います。

深谷 易学で言うところ、去年は風の年だったそうです。速い速度で世の中が移り変わり成果のない年だった。一方今年には森の年だと言われています。それぞれの樹々が目的を持って根を張り、地を固めて栄養を貯える時代です。私の経験から言ってもそのように感じます。今年はいいい年になっていくと信じ、その道しるべになるよう謙虚にお互いの立場を尊重し合い、先頭に立ってがんばり、提案していきたいと思います。